

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190600108		
法人名	株式会社 サンライズ		
事業所名	グループホーム ゆつつらーと		
所在地	佐賀県武雄市武雄町大字富岡10101番地3		
自己評価作成日	令和2年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和2年8月21日	外部評価確定日	令和2年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自立・快適・安心をグループホームゆつつらーとのモットーとして、ゆったりとした静かな環境の中で、「自分のペースで」「自分らしく」「快適に」「安心して」生活していただけるように取り組んでいます。 各棟の処遇理念を実践することにより、ゆつつらーとのモットーがより実現できるように努めています。 介護計画については、個人の生活歴や生活スタイルを理解し、個々を大切に支援できるように努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は市街地から少し離れた閑静な山里の麓に位置している。自然が豊かで、周囲には民家、子ども園、運動公園、桜の名所でもある寺などが点在している。利用者は散歩時に近所の人と挨拶を交わしたり、四季の移り変わりを実感し、心を癒している。園児との交流、近くの農家から野菜を届けてもらう、避難訓練の地元消防団の協力、自然災害時には地域から避難協力の申し出、職員の事業所周辺の美化活動など、地域との連携が深まっている。利用者が暮らす建物は回廊式で、中央に木製のテラスがあり、利用者の憩いの場所にもなっている。利用者の楽しみの一つである食事には、調理専門の職員が採用されており、家庭の味がする美味しい食事が出されている。毎月、取り寄せ弁当の日もある。 家族アンケートには「利用者一人ひとりを把握されており安心する」「自由に生活をさせてもらっている」「本人が得意なことをゲームに取り入れてもらっている」等々の声が多く、日頃の利用者主体の支援がうかがえる。 新型コロナウイルスの感染防止には万全を期し、家族や来訪者にも理解と協力をお願いしている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立・快適・安心をモットーとして、自分のペースで・自分らしく・快適に・安心して生活できるよう支援する。昨年度に引き続き、安全・健康・信頼を掲げ、実践に取り組んでいる。	自立・快適・安心をモットーとして、自分のペースで・自分らしく・快適に・安心して生活できるよう支援する。昨年度に引き続き、安全・健康・オンリーワンを掲げ、実践に取り組んでいる。	事業所開設時の運営理念を、年度末に職員皆で再検討している。更にユニット毎に職員の想いのある目標を話し合い、実践に活かしている。理念は職員が何時も目につきやすい所に掲示されている。また、定例の会議の中で、理念を確認しつつ話し合うことが多い。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の回覧板を回してもらい、地域の情報がとれるようにしている。地域の草払い等にも参加している。地域の保育園児の訪問もあり、お遊戯や手遊び等で交流を図っている。また、ボランティアの話があれば受け入れている。	地区の回覧板を回してもらい、地域の情報がとれるようにしている。地域の草払い等にも参加している。地域の保育園児の訪問もあり、お遊戯や手遊び等で交流を図っている。また、ボランティアの話があれば受け入れている。	地域の自治会にも加入しており、回覧板や地域住民からの情報を運営に活かす様に努めている。職員が地域の奉仕作業に参加したり、時間を見つけて事業所周辺の美化に努めている。地域からの認知症に対する不安や相談にも乗っている。近くの子ども園との交流は、利用者の楽しみになっている。駐車場を借りたり、近所の農家から野菜を届けてもらう事もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症についての理解を深めてもらえるように情報交換をおこなっている。	運営推進会議にて、認知症についての理解を深めてもらえるように情報交換をおこなっている。	/	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、施設の行事や利用状況を報告。また地域の情報をきくことにより、サービスの向上に活かしている。	2か月に2回、運営推進会議を開催し、施設の行事や利用状況を報告。また地域の情報をきくことにより、サービスの向上に活かしている。	これまで年6回、2ヶ月毎に開催されていたが、新型コロナウイルス感染防止のため開催を見合わせた事もあった。運営状況や利用者の生活ぶり、行事報告、課題等だけでなく、今後の運営に活かせる情報、意見、質疑等の意見交換が出来る。大雨時の地域と一体になった災害対策、避難時の地域住民の協力の申し出は、一つの例である。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村の担当者の出席をお願いしており、事業所からの報告をおこない、分からない事は尋ねたり意見や提案もいただいている。	運営推進会議に市町村の担当者の出席をお願いしており、事業所からの報告をおこない、分からない事は尋ねたり意見や提案もいただいている。	運営推進会議の機会を有効に利用されている。関連書類の提出や、ケアに関する報告、課題が生じた場合は、主にケアマネージャーが市役所の健康課に出向いて相談している。行政とは一体になった連携が保たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサーを活用して危険防止を図り、身体拘束のない施設づくりに努めている。身体拘束委員会と検討会を毎月実施し、身体拘束についての理解を深めている。	センサーを活用して危険防止を図り、身体拘束のない施設づくりに努めている。身体拘束委員会と検討会を毎月実施し、身体拘束についての理解を深めている。	職員は身体拘束の弊害について理解している。外部研修会への参加や毎月の身体拘束に関する委員会での勉強会も開かれている。玄関の施錠も無く、出入りも自由である。利用者の外出には同行する等、閉塞感が無いように工夫している。現在、止むを得ず、家族の了承を得て、夜間だけに限った四方ベッド柵を使用例がある。家族にもその状況を詳しく報告し話し合いが重ねられており、一日も早いベッド四方柵の解消を目指して、毎月身体拘束検討委員会でも検討が重ねられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月高齢者虐待防止委員会を実施し、高齢者虐待への理解を深めている。外部の研修会にも参加し、学んだことや情報を施設内での勉強会にて他職員と共有している。	毎月高齢者虐待防止委員会を実施し、高齢者虐待への理解を深めている。外部の研修会にも参加し、学んだことや情報を施設内での勉強会にて他職員と共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修会にも参加し、学んだことや情報を施設内での勉強会にて他職員と共有し理解を深めるようにしている。	外部の研修会にも参加し、学んだことや情報を施設内での勉強会にて他職員と共有し理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書にて分かりやすく説明するよう心掛けている。内容の変更時には文書で通知している。	契約書・重要事項説明書にて分かりやすく説明するよう心掛けている。内容の変更時には文書で通知している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画作成時や面会時に意見や要望を尋ねている。通常も職員が電話などで家族へ近況報告をおこなっている。要望などは職員間で共有、検討しサービスに反映している。	介護計画作成時や面会時に意見や要望を尋ねている。通常も職員が電話などで家族へ近況報告をおこなっている。要望などは職員間で共有、検討しサービスに反映している。	概ね家族の来所は多い。職員は話しやすいようにと笑顔で明るく対応している。家族と直接話し合える良い機会として大事にしている。家族も要望にそって親身に対応してもらっている。遠方であったり、なかなか来れない家族には、電話による近況報告を行っている。在宅時と同じシャンプーの使用や栄養ドリンクについての事等、細やかな相談も多く、その後のケアに活かしている。	遠方にいて来所が少ない家族や、新型コロナウイルスの影響で面会制限があり思う様に面会が出来ない家族から、リモート面会の要望がある。今後の課題として実現出来るものかどうかの検討を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティング(職員会議)を実施し、職員の意見を聞く機会を設けている。また、法人本部の担当者が職員との面接をおこなう等して、意見や要望などを聞いている。	毎月ミーティング(職員会議)を実施し、職員の意見を聞く機会を設けている。また、法人本部の担当者が職員との面接をおこなう等して、意見や要望などを聞いている。	毎月の定例の職員会議は、休みの職員も出席して、ユニット合同で開かれている。全員で行うカンファレンスも含まれ、ケアについて共有されている。本部担当者の個人面接もある。管理者は常に職員の声に耳を傾け、働きやすい職場環境づくりにも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職場環境・条件の整備に努力している。こまめに管理者や職員との面会の機会を持ち、意見や要望を聞き取っている。	代表者は、職場環境・条件の整備に努力している。こまめに管理者や職員との面会の機会を持ち、意見や要望を聞き取っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や外部の研修会に参加し取り組んでいる。	法人内や外部の研修会に参加し取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐賀県認知症グループホーム協会に入会しており、情報交換が出来るようにしている。	佐賀県認知症グループホーム協会に入会しており、情報交換が出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの入居相談後、入居前に自宅や施設を訪ね本人にお会いし、現在の困りごと等聞きながら信頼関係の構築に努めている。	家族からの入居相談後、入居前に自宅や施設を訪ね本人にお会いし、現在の困りごと等聞きながら信頼関係の構築に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時等に管理者及び計画作成担当者が現状の家族の負担や困りごとなどを聞き、事業所のサービス内容や費用について説明をおこなっている。	入居相談時等に管理者及び計画作成担当者が現状の家族の負担や困りごとなどを聞き、事業所のサービス内容や費用について説明をおこなっている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容によっては、様々な選択肢があることを説明し、もっとも必要とされるサービスの紹介をおこなっている。	相談内容によっては、様々な選択肢があることを説明し、もっとも必要とされるサービスの紹介をおこなっている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に、毎日の洗濯物作業や食器洗い等の家事作業をおこなっている。利用者同士でもお互いをいたわる良い雰囲気はできている。利用者が出来る事の発見もある。	利用者と共に毎日の洗濯物作業などをおこなっている。縫い物をしていただく方もいる。利用者同士でもお互いをいたわる良い雰囲気はできている。利用者が出来ることの発見もある。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者とその家族の関係や気持ちを傾聴し、悩みや喜びを共感出来る様に日頃の様子を施設の新聞等にて報告している。面会時には居室や食堂にてゆっくりと過ごしていただいている。	利用者とその家族の関係や気持ちを傾聴し、悩みや喜びを共感出来る様に日頃の様子を施設の新聞等にて報告している。面会時に一緒に散歩に出掛けたり、受診の付き添いをされる方もいる。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや散歩等で馴染みの場所へ出掛けたり、普段の会話の話題に盛り込んでいる。知人の訪問時には会話に職員も少し加わり、情報を共有している。	ドライブや散歩等で馴染みの場所へ出掛けたり、普段の会話の話題に盛り込んでいる。知人の訪問時には会話に職員も少し加わり、情報を共有している。	入居前の諸情報で、それまでの生活歴や社会的な人間関係について把握が来ている。入居後は散歩や買い物の際に知り合いの方と挨拶やちょっとした会話もある。かつて行った事がある公園や自宅近くまでドライブにも出かけている。農村風景を見たいと希望する方も多く、要望に応えている。お盆や正月、彼岸などに一時帰宅の希望がある方には家族の協力を得て実現している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、席の位置等に配慮している。職員は利用者同士の間に入り、話題を提供している。	利用者同士の関係を把握し、席の位置等に配慮している。職員は利用者同士の間に入り、話題を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者の家族から連絡があったり、施設から近況を尋ねたりしている。	退所された利用者の家族から連絡があったり、施設から近況を尋ねたりしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いや意向を把握するよう努めている。意思疎通の困難な方は、家族からの情報や普段の言動、表情等から意向をくみ取る様に努めている。	利用者の思いや意向を把握するよう努めている。意思疎通の困難な方は、家族からの情報や普段の言動、表情等から意向をくみ取る様に努めている。	まずは、声かけをよくする様にと心がけている。何度でも話しているうちに利用者の心の奥にある思いに触れることがある。本人の心に寄り添いながら、具体的に思いや意向の把握に努めている。会話だけでなく、表情の変化、つぶやき、ちょっとした行動等からも、その意味を推し測っている。	事業所の「目標達成計画票」に「利用者一人ひとりの思いや意向を汲み取り、日々の生活が生き生きしたものとなる」ことを目標とし、目標達成に向けた具体的な取り組み内容を掲げている。次のステップに向けて、目標が達成されることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人・家族からの聞き取りにて状況把握に努めている。1度や2度の聞き取りでは見えてこない所があるので、随時聞き取りを続けている。	利用者本人・家族からの聞き取りにて状況把握に努めている。1度や2度の聞き取りでは見えてこない所があるので、随時聞き取りを続けている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれの1日の過ごし方を観察し、本人の出来る事・出来ない事や心身の状況を把握し、個々のペースを大切にしている。	利用者それぞれの2日の過ごし方を観察し、本人の出来る事・出来ない事や心身の状況を把握し、個々のペースを大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の意見や意向、かかりつけ医の意見、介護職員や看護職員の意見を聞きながら介護計画の原案を作成している。サービス担当者会議にて再度検討し、介護計画を作成している。ケアプラン評価や総合評価も職員の意見を聞きながら行っている。	利用者・家族の意見や意向、かかりつけ医の意見、介護職員や看護職員の意見を聞きながら介護計画の原案を作成している。サービス担当者会議にて再度検討し、介護計画を作成している。ケアプラン評価や総合評価も職員の意見を聞きながら行っている。	利用者と家族の暮らしに対する意向を十分に活かした介護計画である。実現可能な具体的な支援計画が、家族を含めて全職員が関わって立案されている。生活全般から解決すべき課題を見出し、焦らず、ゆっくりと目標達成を目指した利用者主体の支援計画である。介護計画の見直しは、利用者の状況変化に応じて、随時または定期的きちんとして行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録について、計画作成担当者は利用者にとって大切なアセスメントとして位置づけ情報収集にも活用している。	介護記録について、計画作成担当者は利用者にとって大切なアセスメントとして位置づけ情報収集にも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス担当者会議は、利用者本人の介護計画のサービス内容についての検討が多く、サービス内容が広がりがつある。また、介護計画表の総合的な援助方法をしっかり定める事で、サービスの統一化を目指している。	サービス担当者会議は、利用者本人の介護計画のサービス内容についての検討が多く、サービス内容が広がりがつある。また、介護計画表の総合的な援助方法をしっかり定める事で、サービスの統一化を目指している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災に関する連携として、避難場所を近隣のお寺にお願いしたり、地域の消防団との連携もとれている。施設近くの川良地区の運動公園では地域の方との交流も出来る。	防災に関する連携として、避難場所を近隣のお寺にお願いしたり、地域の消防団との連携もとれている。施設近くの川良地区の運動公園では地域の方との交流も出来る。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医療機関だけでなく、利用者の以前からのかかりつけ医への通院の方もいる。以前からのかかりつけ医師との関係や情報提供もスムーズにおこなっており、サービス担当者会議への照会にも応じてもらっている。	施設の協力医療機関だけでなく、利用者の以前からのかかりつけ医への通院の方もいる。以前からのかかりつけ医師との関係や情報提供もスムーズにおこなっており、サービス担当者会議への照会にも応じてもらっている。	かかりつけ医は利用者や家族の意向にそったものである。入居後の主治医の変更も、利用者や家族の意向に沿ったものである。協力医療機関とは何時でも相談や受診が出来る関係にあり、月に2回の定期的な往診もある。なお、受診には職員が同行し支援している・歯科の受診も職員が付き添う形で支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康は看護師だけでなく職員全体で守ろうという意識があり、日々の情報交換や状態の変化の早期発見に努めている。	利用者の健康は看護師だけでなく職員全体で守ろうという意識があり、日々の情報交換や状態の変化の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は職員が面会に行き、情報の把握をおこなっている。	利用者が入院した場合は職員が面会に行き、情報の把握をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合における対応に関わる指針について、家族に説明し同意を得ている。 緊急対応協力機関：新武雄病院	利用者が重度化した場合における対応に関わる指針について、家族に説明し同意を得ている。 緊急対応協力機関：新武雄病院	利用契約時に指針を基にして、利用者や家族が納得のいくように、事業所として出来る事、出来ないことを丁寧に説明し、話し合いを持っている。重度化した場合は、主治医や家族、関係者関係と状況に応じて相談を行い、綿密な連携がとられている。現在、看取り介護は事業所の実情から行っていない。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	武雄消防署員より、応急手当についての研修を受けている。夜間の緊急マニュアルも整備している。	武雄消防署員より、応急手当についての研修を受けている。夜間の緊急マニュアルも整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練及び消火訓練を年2回実施している。避難場所は近隣のお寺に協力を得ている。また、地震や水害に対する訓練もおこなっている。	火災の避難訓練及び消火訓練を年2回実施している。避難場所は近隣のお寺に協力を得ている。また、地震や水害に対する訓練もおこなっている。	消防計画にのっとり、年に2回、夜間火災を想定した避難訓練を実施している。地元消防団も参加しての避難訓練である。また、事業所がハザードマップに含まれており、地震や大水等の自然災害時の避難訓練も随時行っている。地域から、避難時の協力の申し出もあっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者個々のプライバシーに配慮した声掛けや介助をおこなうよう心掛けている。	職員は利用者個々のプライバシーに配慮した声掛けや介助をおこなうよう心掛けている。	利用者の尊厳の尊重・基本的人権をあらゆる支援の基礎としている。入浴やトイレ等の支援では、一人ひとりそれぞれの利用者に合った言葉かけ、特に誇りや人格を損なわない様に留意している。勉強会も行っている。個人情報の取り扱いにも慎重を期している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の意思を尊重し、日常生活の中の小さな事でも自己決定が出来る様に支援している。	利用者本人の意思を尊重し、日常生活の中の小さな事でも自己決定が出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分のペースで、自分らしく、快適に安心して生活していただける様努めている。	利用者が自分のペースで、自分らしく、快適に安心して生活していただける様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や外出時の服装、普段の衣服の組み合わせ等にも気を配るようにしている。自己決定が出来る利用者にはどの衣服を着用するか、ご自分で決めていただくこともある。	朝の整容や外出時の服装、普段の衣服の組み合わせ等にも気を配るようにしている。自己決定が出来る利用者にはどの衣服を着用するか、ご自分で決めていただくこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者個々の好き嫌いを把握している。栄養士が季節感のある旬の食材を利用したメニューを取り入れている。利用者の中には食器洗いやお盆拭きをしてくださる方もいる。	職員は利用者個々の好き嫌いを把握している。栄養士が季節感のある旬の食材を利用したメニューを取り入れている。利用者の中にはテーブル拭きやお盆拭きをしてくださる方もいる。	一日三食とも台所で調理された食事である。調理専門の職員を採用し、高齢者向けの美味しく調理された食事が出されている。月に一度の注文弁当は利用者の楽しみでもある。早い時間に食事を希望する方には、その希望に応じている。職員は持参の弁当を開き、食事の手伝いやそっと見守りながら一緒に食事を摂っている。食前の入念な手洗い、食卓の椅子の配置は、感染症対策に配慮したものである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により1日1600calで献立が作成されている。個々の食事・水分摂取量をチェックしており、食事及び水分の確保が出来る様支援している。個々に応じて食事形態を刻み食やミキサー食、水分にトロミを付ける等して提供している。	栄養士により1日1600calで献立が作成されている。個々の食事・水分摂取量をチェックしており、食事及び水分の確保が出来る様支援している。個々に応じて食事形態を刻み食やミキサー食、水分にトロミを付ける等して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き支援をおこなっている。また、協力歯科医院に往診してもらい義歯の調節などおこなってもらっている。	毎食後、歯磨き支援をおこなっている。また、協力歯科医院に往診してもらい義歯の調節などおこなってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄リズムに合わせて排泄介助をおこなっている。日中は1/3の利用者がトイレで排泄出来ている。	利用者の排泄リズムに合わせて排泄介助をおこなっている。日中は1/3の利用者がトイレで排泄出来ている。	排泄に関して自立した利用者も多いが、本人に任せきりでなく、さりげなく見守っている。日中はほとんどの利用者がトイレでの排泄である。利用者一人ひとりに合った支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日確認している。水分補給や適度な運動の機会を提供している。	排便の有無を毎日確認している。水分補給や適度な運動の機会を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夏場は週3回、冬場は週2回の入浴の機会を基本として設けている。利用者の希望や体調に応じて入浴のタイミングに配慮している。	夏場は週3回、冬場は週2回の入浴の機会を基本として設けている。利用者の希望や体調に応じて入浴のタイミングに配慮している。	基本的な入浴日はあるが、お湯の準備は毎日出来ており、入浴希望には柔軟に対応している。夏場はシャワー利用が多くなる。入浴順や入浴時間に特に決まりは無く、希望に合わせてゆっくりとした入浴支援である。その方が好む入浴剤を使用したり、自分用のシャンプーを使う方もある。入浴を拒む方には無理強いをしていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースで好きな時、好きな時間に休息してもらっている。	可能な限り自分のペースで好きな時、好きな時間に休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主に看護師が管理し、副作用等について職員に説明をおこなっている。管理についてはマニュアルを作成し事故防止に努めている。誤薬事故があった場合には看護師に報告、医師より指示をもらい対応するようにしている。	主に看護師が管理し、副作用等について職員に説明をおこなっている。管理についてはマニュアルを作成し事故防止に努めている。誤薬事故があった場合には看護師に報告、医師より指示をもらい対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は利用者個々の力量を把握しており、その人に合わせた役割作りをおこなっている。利用者個々の趣味への関心を示し、サポートしている。職員と共に壁面飾り等の作品作成をされる方もいる。	職員は利用者個々の力量を把握しており、その人に合わせた役割作りをおこなっている。利用者個々の趣味への関心を示し、サポートしている。職員と共に壁面飾り等の作品作成をされる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や紅葉見物等への外出支援をおこなっている。また、天気の良い時は利用者の希望で近所への散歩やドライブに出掛けたりしている。	花見や紅葉見物等への外出支援をおこなっている。また、天気の良い時は利用者の希望で近所への散歩やドライブに出掛けたりしている。	事業所周辺の散歩や、天候を見はからっての外気浴が多い。近所の方と挨拶を交わしたり、新鮮な外気に触れて気分転換にもなっている。行事計画で予定しているものは、法人の車椅子対応車両でみんなで出かけている。事業所の車で利用者の想いを察してのドライブも多い。ドライブ先の安全度、トイレの使用具合等を事前に確認してからのドライブである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個人で金銭を管理している方はいない。欲しい物、必要な物がある時はご家族へ連絡し購入をお願いしたり、個人の預り金より職員が購入している。	利用者個人で金銭を管理している方はいない。欲しい物、必要な物がある時はご家族へ連絡し購入をお願いしたり、個人の預り金より職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも自由に電話をしてもらっている。	希望があれば、いつでも自由に電話をしてもらっている。家族から定期的に絵葉書が届く方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の壁を利用して壁面飾りなどで季節感を出すようにしている。また、撮影した写真も利用者の目にとまる場所に掲示している。居間には椅子、テレビを置きテレビ視聴されている。	施設の壁を利用して壁面飾りなどで季節感を出すようにしている。また、撮影した写真も利用者の目にとまる場所に掲示している。居間には椅子、テレビを置きテレビ視聴されている。	建物は回廊式に造られ、中央は空が見えるウッドデッキで、サッシを開ければ、日向ぼっこや洗濯物を干すことも出来る。椅子も置かれ、そこで思い思いに過ごすことも出来る。気分を変えてお茶やおやつの時間にも使用できる。24時間換気システムが作動しているが、サッシを開けての換気にも努めている。手を触れる所の消毒も時間を決めて行っている。リビングは高さの異なる椅子やテーブルを準備したり、配置を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間を活用することにより、1人でも、気の合った利用者同士でも思い思いに過ごせる環境が出来ている。利用者個々がマイペースに過ごされている。	食堂と居間を活用することにより、1人でも、気の合った利用者同士でも思い思いに過ごせる環境が出来ている。利用者個々がマイペースに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は基本的に利用者本人や家族の好みで自由にしてもらっている。家族の写真や馴染みの私物を持ち込まれている方もおり、利用者が居心地よく過ごせる居室づくりを支援している。	居室は基本的に利用者本人や家族の好みで自由にしてもらっている。家族の写真や馴染みの私物を持ち込まれている方もおり、利用者が居心地よく過ごせる居室づくりを支援している。	家族の協力を得ながら、本人がゆっくりと落ち着いて過ごせる居室づくりを目指している。使い慣れた物や長年馴染んだ家具や生活用品などの持ち込みに特に制限は無い。利用者はリビング等の共用場所で一日を過ごすことが多く、ゆっくりと休んだり、単に睡眠をとる場所になっている感じがする居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	そつと見守り、観察をしながら、必要な時に手助けができるようにしている。	そつと見守り、観察をしながら、必要な時に手助けができるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)				
※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)			1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
		○		3. たまに
			○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		○	1. ほぼ全ての家族等が
		○		2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない